

たという。1月5日 フランス保健大臣 ロゼリン バシェロ氏は注文した9,400万回接種分（バクスター分は含まれていない）のうち50,00万回接種分をキャンセルすると発表（表15）^{64,65）}。

- (4) 英国も大量の余剰ワクチンの存在に絶望的になり、の転売先、寄付受け入れ先を求めたが、欧州会議開催で道が開け、契約破棄の交渉が成立する見込み

英国では、ランセットの編集者がA(H1N1) 2009<単価ワクチン>の生産量を増加させるための手段としてアジュバントを添加することに対して強い懸念を表明した⁶⁷⁾。

インフルエンザ A(H1N1)2009の感染症状が軽症であることと、国民が集団接種に不安をいだいているワクチン需要が急落した。英国保健省はワクチン接種を受けているのは、ハイリスクグループ（幼若小児、高齢者、妊婦など）にとどまっていると発表したが、英国政府も絶望的な状態に陥り、大量の余剰ワクチンの転売先、寄付受け入れ先を求めた^{46,67)}。英国の惨状がきっかけとなって、欧州会議開

催の気運が高まった。1月8日（会議開催の4日前、GSKは会議に関する情報を知っていたと思われる）英国の予防接種ディレクター デビット サリスブリー氏は、英国は既に納入され余剰となっているワクチンの問題と契約に従って納入されることになっている新規ワクチンの問題との2つの争点があると言っている。英国政府は2009年5月にPandemrix(GSK)6,000万回接種分の購入を契約し、既に2,390万回接種分が納入されている。現在GSKと向後の納入分について交渉中。Celvapan(バクスター)とは3,000万回接種分の購入契約を交わしており、500万回接種分が納入されている。バクスターとは未納入分については契約を破棄した⁶⁸⁻⁷⁰⁾。製薬会社が交渉に応じ始めたのは、欧州会議開催が決定された効果であろう。

- (5) ベルギーも遅ればせながら注文を1/3カット
2010年1月15日 ベルギー保健省は当初、1,260万回接種分のPandemrixの注文を出したが、その1/3をカットし、3,300万ユーロ(4,760万ドル)節約したと発表⁷¹⁾。

表15 フランスがキャンセルした（あるいはキャンセル交渉中の）A(H1N1)2009ワクチン

製薬会社	注文数	キャンセル数 (まだ支払っていない分あるいはまだ納入されていない分)	製薬会社の反応
GSK	5,000万回接種分	3,200万回接種分	仏政府：罰金なしでキャンセルすることを交渉 GSK：喜んで再交渉に応じる ^{注5}
サノフィパスツール	2,800万回接種分	1,100万回接種分	9,000万回接種分は無償でキャンセルに応じる 残りの2,000万回接種分については交渉中
ノバルティス	1,600万回接種分	700万回接種分	仏政府：断固たる態度で罰金なしでキャンセルすることを交渉する ノバルティス：合意した契約は拘束力があると考えている。各国政府からのリクエストはケースバイケースで評価する ⁶⁶⁾ 。
バクスター	50万回接種分	0	
合 計	9,450万回接種分	5,000万回接種分	

注5 GSKの態度が軟化したのは、欧州委員会が近日中に開催される情報を得ていたためと思われる